



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年10月30日

上場会社名 阪急阪神ホールディングス株式会社

上場取引所 東大

コード番号 9042 URL <http://holdings.hankyu-hanshin.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 角 和夫

問合せ先責任者 (役職名) グループ経営企画部 部長(経理担当) (氏名) 東口 和哉

TEL 06-6373-5013

四半期報告書提出予定日 平成24年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	335,869	5.4	54,731	32.3	48,851	23.4	28,173	32.4
24年3月期第2四半期	318,614	1.4	41,371	△1.6	39,597	17.2	21,283	16.2

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 24,877百万円 (33.6%) 24年3月期第2四半期 18,624百万円 (45.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	22.34	22.33
24年3月期第2四半期	16.88	16.88

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	2,265,579	544,217	23.4
24年3月期	2,274,380	524,801	22.6

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 531,022百万円 24年3月期 513,292百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	680,000	4.7	83,000	12.5	68,000	4.0	32,000	△18.5	25.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (1)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期2Q	1,271,406,928 株	24年3月期	1,271,406,928 株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	10,360,038 株	24年3月期	10,279,339 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期2Q	1,261,095,476 株	24年3月期2Q	1,260,987,429 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は四半期決算短信に添付しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(5) セグメント情報等	9
4. 決算補足説明資料	11
(1) 平成25年3月期第2四半期連結累計期間（前年同期比較）	11
(2) 平成25年3月期予想（5月発表予想比較）	12
(3) 阪急電鉄(株) 阪神電気鉄道(株) 運輸成績表	13
(4) 連結貸借対照表	14
(5) 連結キャッシュ・フロー計算書	14
(6) 連結有利子負債	14
(7) 設備投資	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災からの復興需要等を背景として、緩やかな回復の兆しがみられたものの、世界景気の減速や長引く円高等により、足踏み状態が続いており、先行きは依然として不透明な状況にあります。

この間、当社グループにおきましては、中期経営計画に掲げる目標を達成するべく、グループ経営機能を担う当社の下、中核会社を中心に、各コア事業の競争力強化を図るとともに、コア事業間の連携を通じてグループ総合力の発揮に努めました。

この結果、不動産事業においてマンション分譲戸数が前年同期を上回ったほか、前年同期は旅行事業及びホテル事業を中心に東日本大震災の影響を受けていたこともあり、営業収益は3,358億69百万円となり、前年同期に比べ172億55百万円(5.4%)増加し、営業利益は547億31百万円となり、前年同期に比べ133億60百万円(32.3%)増加しました。また、前年同期は持分法適用関連会社に対する持分比率の増加に伴い持分法による投資利益が増加していたこと等から、営業外収益は減少しましたが、経常利益は488億51百万円となり、前年同期に比べ92億53百万円(23.4%)増加し、四半期純利益は281億73百万円となり、前年同期に比べ68億90百万円(32.4%)増加しました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

<都市交通事業>

鉄道事業につきましては、阪急電鉄において、海外からのお客様に向けて阪急全線乗車券「HANKYU TOURIST PASS」を発売し、また、阪神電気鉄道において、南海電気鉄道と共同で、神戸と関西国際空港間の移動に便利な「閑空アクセスきっぷ(阪神版)」を発売したほか、鉄道各社と共同で「KOBE de 清盛」1 day パス・サマーキャンペーンを実施するなど、グループ各社において、沿線へのお客様の誘致を目的とした各種施策に取り組みました。

施設面では、阪神三宮駅において、姫路方面からのお客様がコンコース階へ移動することなく近鉄奈良方面行きの列車に乗り換えていただけるよう、線路及びホームの切替工事を実施するとともに、梅田・大阪難波方面ホームを拡幅することで、ホームの混雑緩和を図りました。また、阪急梅田駅において、大阪梅田地区の「顔」にふさわしい、洗練された統一感溢れる空間とするため、本格的なリニューアル工事(2014年度末全面竣工予定)を進めるなど、引き続き、鉄道施設の整備・改良に努めています。

自動車事業につきましては、阪急バス・阪神バス・阪急田園バスの一般路線において、共通のICカード乗車券「hanica(ハニカ)」でのサービスを開始するなど、お客様の利便性の向上を図りました。

これらの結果、営業収益は965億96百万円となり、前年同期に比べ1億52百万円(0.2%)増加しました。また、減価償却費が減少したこと等もあり、営業利益は193億88百万円となり、前年同期に比べ18億33百万円(10.4%)増加しました。

<不動産事業>

不動産賃貸事業につきましては、8月に新大阪駅に直結する「新大阪阪急ビル」(大阪市淀川区)を開業したほか、当社グループの重要な事業拠点である梅田地区において「阪急32番街」や「ハービスPLAZA」(一部)をリニューアルオープンするなど、厳しい事業環境の中、グループ各社が保有する商業施設・オフィスビルの競争力の強化と稼働率の維持等に取り組みました。

不動産分譲事業につきましては、マンション分譲では、「ジオタワー高槻ミュージズフロント」(大阪府高槻市)、「ジオ阪急池田 満寿美町ソシア」(大阪府池田市)、「ジオ西新宿ツインレジデンス」(東京都新宿区)等を、宅地戸建分譲では、「阪急宝塚山手台」(兵庫県宝塚市)、「大阪中島公園都市 ハピアガーデン四季のまち」(大阪市西淀川区)等を、それぞれ販売しました。

大規模開発事業につきましては、建替工事中の「梅田阪急ビル」が11月21日にグランドオープンするほか、「うめきた(大阪駅北地区)先行開発区域」等の各プロジェクトについても鋭意進めています。

これらの結果、マンション分譲戸数が前年同期を上回ったこと等により、営業収益は899億51百万円となり、前年同期に比べ70億13百万円(8.5%)増加し、営業利益は193億18百万円となり、前年同期に比べ49億30百万円(34.3%)増加しました。

<エンタテインメント・コミュニケーション事業>

スポーツ事業につきましては、阪神タイガースが、多くのファンの方々にご声援をいただくとともに、阪神甲子園球場では、物販・飲食やファンサービスにおいて、多様な企画を実施するなど、魅力ある施設運営に取り組みました。

ステージ事業につきましては、歌劇事業において、宝塚大劇場・東京宝塚劇場で上演した宙組トップスター退団公演「華やかかなりし日々」・「クライマックス」や、月組公演「ロミオとジュリエット」が特に好評を博しました。また、演劇事業において、梅田芸術劇場で、ミュージカル「エリザベート」や「NHK交響楽団UMEDA演奏会」など話題性のある多様な公演を催しました。

コミュニケーション・メディア事業につきましては、情報通信事業において、高速通信が可能な公衆無線LANサービスを、阪急三番街等の沿線商業施設や阪神電気鉄道の全駅で開始するとともに、阪急電鉄の各駅へ順次展開しました。また、ケーブルテレビ事業において、携帯電話とのセットメニューの拡販や長期契約割引プランの導入等により、加入契約者数を順調に伸ばしました。

さらに、六甲山地区において、現代アートの展覧会「六甲ミーツ・アート 芸術散歩2012」を開催するなど、一層の集客に努めました。

これらの結果、営業収益は574億92百万円となり、前年同期に比べ32億61百万円（6.0%）増加し、営業利益は110億円となり、前年同期に比べ20億60百万円（23.1%）増加しました。

<旅行・国際輸送事業>

旅行事業につきましては、魅力ある旅行商品の企画と積極的な販売活動に努めたことにより、海外旅行がヨーロッパ、アジア方面を中心に好調に推移し、また、前年度に東日本大震災の影響を大きく受けた国内旅行も、東京スカイツリーの開業効果等で関東方面の集客が増加するなど、順調に回復してきています。

国際輸送事業につきましては、海外法人を中心に、タイの洪水被害からの復旧等に伴う緊急輸送の取扱いがあったものの、欧州の景気後退に起因する輸送量の伸び悩み等があり、厳しい事業環境で推移しました。そうした中でも、ベトナム等に拠点を増やしグローバルネットワークの拡充を図るなど、お客様により高品質なサービスを提供できる体制の強化を進めました。

これらの結果、営業収益は385億67百万円となり、前年同期に比べ46億2百万円（13.6%）増加し、営業利益は58億46百万円となり、前年同期に比べ39億25百万円（204.4%）増加しました。

<ホテル事業>

ホテル事業につきましては、前年同期に東日本大震災の影響から需要が低迷しましたが、順調に回復してきています。

こうした中、新たな事業拠点として、9月に宿泊主体型ホテル「レム」の4号店となる「レム新大阪」を開業しました。また、阪急グランドビル1階にケーキショップ「パティスリー ルブルミエ 宝塚ホテル」を開業したほか、吉祥寺第一ホテルにおいて、エントランスや客室を中心にリニューアルを行うなど、収益の維持・拡大に向けた取組みを進めました。さらに、ザ・リッツ・カールトン大阪が5月に開業15周年を迎え、また、ホテル阪急インターナショナルが11月に開業20周年を迎えるにあたり、様々な記念プランを販売するなど、積極的な販売促進活動に取り組みました。

これらの結果、営業収益は315億13百万円となり、前年同期に比べ12億21百万円（4.0%）増加しました。一方、営業損益は2億42百万円の損失となったものの、前年同期に比べ6億89百万円改善しました。

<流通事業>

流通事業につきましては、既存店舗の競争力強化に向けてリニューアル工事を実施したほか、コンビニエンスストア「アズナス 阪急三番街B1店」（大阪市北区）や惣菜店「クックデリ御膳 住道店」（大阪府大東市）、「クックデリ御膳 岸和田カンカン店」（大阪府岸和田市）を出店するなど、積極的に店舗網の拡充に努めました。また、4月1日付で書籍販売事業を分社し、より機動的に事業を運営できる体制を構築しました。

これらの結果、営業収益は266億71百万円となり、前年同期に比べ4億51百万円（△1.7%）減少しましたが、コスト抑制に努めたこと等により、営業利益は9億27百万円となり、前年同期に比べ1億65百万円（21.7%）増加しました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、受取手形及び売掛金が減少したこと等により2兆2,655億79百万円となり、前連結会計年度末に比べ88億円減少しました。負債合計は、有利子負債が減少したこと等により1兆7,213億61百万円と前連結会計年度末に比べ282億16百万円減少しました。また、純資産合計は、利益剰余金が増加したこと等により5,442億17百万円と前連結会計年度末に比べ194億16百万円増加し、自己資本比率は23.4%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想につきましては、今後も厳しい事業環境が続くものの、不動産事業においてマンション分譲事業が好調に推移していることに加え、旅行事業において海外旅行がヨーロッパ方面を中心に大きく伸長していること等から、営業収益及び営業利益は前回（5月）発表予想を上回る見込みです。これに加え、支払利息の減少等を織り込むことで、経常利益及び当期純利益につきましても前回（5月）発表予想から上方修正しています。

詳細は、12ページ「(2) 平成25年3月期予想（5月発表予想比較）」をご参照ください。

※上記の業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想と大きく異なる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び一部の連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しています。

なお、この変更に伴う損益への影響は軽微です。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,280	23,930
受取手形及び売掛金	73,404	60,717
販売土地及び建物	118,415	122,422
商品及び製品	7,219	6,980
仕掛品	4,288	8,272
原材料及び貯蔵品	3,858	4,010
その他	44,070	44,970
貸倒引当金	△251	△318
流動資産合計	275,286	270,987
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	578,925	580,742
機械装置及び運搬具（純額）	47,404	45,025
土地	892,356	896,588
建設仮勘定	131,434	130,496
その他（純額）	18,246	18,779
有形固定資産合計	1,668,366	1,671,633
無形固定資産		
のれん	38,437	37,430
その他	17,157	17,288
無形固定資産合計	55,594	54,719
投資その他の資産		
投資有価証券	227,417	221,599
その他	48,324	47,171
貸倒引当金	△608	△531
投資その他の資産合計	275,133	268,240
固定資産合計	1,999,093	1,994,592
資産合計	2,274,380	2,265,579

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	43,410	36,638
短期借入金	316,545	331,561
未払法人税等	4,170	4,869
賞与引当金	3,702	4,068
その他	199,213	171,761
流動負債合計	567,043	548,899
固定負債		
社債	102,000	102,000
長期借入金	720,782	699,127
退職給付引当金	59,194	59,551
役員退職慰労引当金	875	771
その他	299,682	311,012
固定負債合計	1,182,535	1,172,462
負債合計	1,749,578	1,721,361
純資産の部		
株主資本		
資本金	99,474	99,474
資本剰余金	150,027	150,027
利益剰余金	276,059	297,185
自己株式	△4,140	△4,172
株主資本合計	521,421	542,514
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△8,044	△11,716
繰延ヘッジ損益	△131	△521
土地再評価差額金	2,972	3,512
為替換算調整勘定	△2,924	△2,766
その他の包括利益累計額合計	△8,128	△11,492
新株予約権	32	112
少数株主持分	11,476	13,083
純資産合計	524,801	544,217
負債純資産合計	2,274,380	2,265,579

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
営業収益	318,614	335,869
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	260,801	264,163
販売費及び一般管理費	16,441	16,974
営業費合計	277,242	281,137
営業利益	41,371	54,731
営業外収益		
受取利息	42	38
受取配当金	705	713
持分法による投資利益	7,470	2,831
雑収入	1,638	923
営業外収益合計	9,857	4,506
営業外費用		
支払利息	10,537	9,626
雑支出	1,093	760
営業外費用合計	11,630	10,386
経常利益	39,597	48,851
特別利益		
固定資産売却益	50	55
工事負担金等受入額	3,465	191
その他	1,037	62
特別利益合計	4,553	309
特別損失		
固定資産売却損	52	55
固定資産圧縮損	3,260	183
固定資産除却損	186	169
事業整理損失引当金繰入額	—	2,135
その他	4,164	1,281
特別損失合計	7,664	3,827
税金等調整前四半期純利益	36,487	45,334
法人税、住民税及び事業税	3,816	7,546
法人税等調整額	10,987	9,043
法人税等合計	14,804	16,590
少数株主損益調整前四半期純利益	21,683	28,744
少数株主利益	400	570
四半期純利益	21,283	28,173

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	21,683	28,744
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,094	△2,165
繰延ヘッジ損益	△829	△387
土地再評価差額金	375	—
為替換算調整勘定	80	201
持分法適用会社に対する持分相当額	△590	△1,514
その他の包括利益合計	△3,058	△3,866
四半期包括利益	18,624	24,877
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	18,240	24,268
少数株主に係る四半期包括利益	384	609

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

1 前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

① 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)1	合計	調整額	四半期 連結損益 計算書 計上額
	都市交通	不動産	エンタテインメント・コミュニケーション	旅行・国際輸送	ホテル	流通	小計				
営業収益											
(1)外部顧客に対する営業収益	94,024	74,733	51,246	33,939	29,950	26,802	310,696	7,631	318,328	285	318,614
(2)セグメント間の内部営業収益又は振替高	2,418	8,204	2,984	25	341	320	14,295	4,018	18,313	△18,313	—
合計	96,443	82,937	54,231	33,965	30,291	27,122	324,992	11,649	336,642	△18,028	318,614
セグメント利益又は損失(△) (注)2	17,554	14,388	8,940	1,920	△931	762	42,632	△9	42,623	△1,252	41,371

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設業等を含んでいます。

2 報告セグメントの利益又は損失(△)は、営業利益をベースとした数値です。

② 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	42,632
「その他」の区分の利益又は損失(△)	△9
のれんの償却額(注)	△1,400
その他	148
四半期連結損益計算書の営業利益	41,371

(注) 主な内容は平成18年度の阪神電気鉄道株との経営統合により発生したのれんの償却額です。

2 当第2四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日）

① 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額	四半期 連結損益 計算書 計上額
	都市交通	不動産	エンタテインメント・コミュニケーション	旅行・国際輸送	ホテル	流通	小計				
営業収益											
(1)外部顧客に対する営業収益	94,047	81,554	54,566	38,563	31,252	26,340	326,325	9,195	335,520	349	335,869
(2)セグメント間の内部営業収益又は振替高	2,548	8,396	2,926	3	261	331	14,468	3,626	18,094	△18,094	—
合計	96,596	89,951	57,492	38,567	31,513	26,671	340,793	12,821	353,614	△17,744	335,869
セグメント利益又は損失(△) (注) 2	19,388	19,318	11,000	5,846	△242	927	56,237	△283	55,954	△1,222	54,731

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設業等を含んでいます。

2 報告セグメントの利益又は損失(△)は、営業利益をベースとした数値です。

② 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	56,237
「その他」の区分の利益又は損失(△)	△283
のれんの償却額(注)	△1,465
その他	243
四半期連結損益計算書の営業利益	54,731

(注) 主な内容は平成18年度の阪神電気鉄道(株)との経営統合により発生したのれんの償却額です。

4. 決算補足説明資料

決算補足説明資料の構成

(1) 平成25年3月期第2四半期連結累計期間（前年同期比較）	(2) 平成25年3月期予想（5月発表予想比較）	(3) 阪急電鉄㈱ 阪神電気鉄道㈱ 運輸成績表
(4) 連結貸借対照表	(5) 連結キャッシュ・フロー計算書	(6) 連結有利子負債
(7) 設備投資		

(1) 平成25年3月期第2四半期連結累計期間（前年同期比較）

① 連結損益の概要

不動産事業においてマンション分譲戸数が前年同期を上回ったほか、前年同期は旅行事業及びホテル事業を中心に東日本大震災の影響を受けていたこともあり、営業収益及び営業利益はそれぞれ増収・増益となりました。また、前年同期は持分法適用関連会社に対する持分比率の増加に伴い持分法による投資利益が増加していたこと等から、営業外収益は減少しましたが、経常利益は増益となり、四半期純利益も増益となりました。

② 連結損益

(単位：百万円、%)

	25年3月期 第2四半期	24年3月期 第2四半期	比較増減	増減率	備考
営業収益	335,869	318,614	17,255	5.4	「連結損益の概要」「連結セグメント損益」をご参照ください。
営業利益	54,731	41,371	13,360	32.3	
うち、減価償却費	26,355	27,847	△ 1,491	△ 5.4	「連結損益の概要」「連結セグメント損益」をご参照ください。
経常利益	48,851	39,597	9,253	23.4	
うち、受取利息及び配当金(A)	751	748	3	0.5	営業外収益 持分法による投資利益：△4,638百万円 〔前年同期に持分法適用関連会社であるエイチ・ツー・オー リテイリング㈱に対する持分比率の増加に伴い持分法による投資利益が増加していたことの影響等〕
うち、支払利息(B)	9,626	10,537	△ 910	△ 8.6	
うち、金融収支(A-B)	△ 8,875	△ 9,789	914	9.3	
四半期純利益	28,173	21,283	6,890	32.4	

③ 連結セグメント損益

(単位：百万円、%)

	25年3月期 第2四半期	24年3月期 第2四半期	比較増減	増減率	備考	
都市交通	営業収益	96,596	96,443	152	0.2	鉄道事業において、阪急線・阪神線ともに堅調に推移したことに加え、減価償却費が減少したこと等により、増収・増益
	営業利益	19,388	17,554	1,833	10.4	
不動産	営業収益	89,951	82,937	7,013	8.5	マンション分譲戸数が前年同期を上回ったこと等により、増収・増益
	営業利益	19,318	14,388	4,930	34.3	
エンタテインメント・コミュニケーション	営業収益	57,492	54,231	3,261	6.0	スポーツ事業において、プロ野球主催試合数が前年同期を上回ったことに加え、歌劇事業において、宙組トップスター退団公演や月組公演「ロミオとジュリエット」が好調であったこと等により、増収・増益
	営業利益	11,000	8,940	2,060	23.1	
旅行・国際輸送	営業収益	38,567	33,965	4,602	13.6	旅行事業において、前年同期に受けていた東日本大震災の影響から回復したことに加え、海外旅行が好調に推移したこと等により、増収・増益
	営業利益	5,846	1,920	3,925	204.4	
ホテル	営業収益	31,513	30,291	1,221	4.0	前年同期に受けていた東日本大震災の影響から回復したこと等により、増収・損失改善
	営業利益	△ 242	△ 931	689	74.0	
流通	営業収益	26,671	27,122	△ 451	△ 1.7	退店及び事業の見直し等により減収となったが、コスト抑制に努めたこと等により増益
	営業利益	927	762	165	21.7	
その他	営業収益	12,821	11,649	1,171	10.1	建設業等
	営業利益	△ 283	△ 9	△ 274	-	
調整額	営業収益	△ 17,744	△ 18,028	283	1.6	
	営業利益	△ 1,222	△ 1,252	30	2.4	
連結	営業収益	335,869	318,614	17,255	5.4	
	営業利益	54,731	41,371	13,360	32.3	

(2) 平成25年3月期予想（5月発表予想比較）

① 連結損益

(単位：百万円、%)

	25年3月期 (今回発表予想)	25年3月期 (5月発表予想)	比較増減	増減率	備 考
営 業 収 益	680,000	670,000	10,000	1.5	不動産事業においてマンション分譲事業が好調に推移していることに加え、旅行事業において海外旅行がヨーロッパ方面を中心に大きく伸長していること等により、増収・増益
営 業 利 益	83,000	78,000	5,000	6.4	
うち、減価償却費	55,300	56,000	△ 700	△ 1.3	
経 常 利 益	68,000	60,000	8,000	13.3	
うち、受取利息及び配当金（A）	1,300	1,100	200	18.2	
うち、支払利息（B）	19,100	20,300	△ 1,200	△ 5.9	
うち、金融収支（A－B）	△ 17,800	△ 19,200	1,400	7.3	
当 期 純 利 益	32,000	30,000	2,000	6.7	

② 連結セグメント損益

(単位：百万円)

	都市交通	不動産	エンタテインメント・ コミュニケーション	旅行・ 国際輸送	ホテル	流通	その他	調整額	連 結
営 業 収 益									
25年3月期（今回発表予想）	192,300	198,000	107,600	71,900	64,800	54,100	34,400	△ 43,100	680,000
25年3月期（5月発表予想）	191,100	193,800	108,700	70,000	66,500	54,600	34,800	△ 49,500	670,000
差 引	1,200	4,200	△ 1,100	1,900	△ 1,700	△ 500	△ 400	6,400	10,000
営 業 利 益									
25年3月期（今回発表予想）	32,000	35,500	10,100	5,700	500	1,300	0	△ 2,100	83,000
25年3月期（5月発表予想）	31,500	33,500	10,500	4,000	500	1,300	0	△ 3,300	78,000
差 引	500	2,000	△ 400	1,700	—	—	—	1,200	5,000

(3) 阪急電鉄㈱ 阪神電気鉄道㈱ 運輸成績表

【実績】

		収 入				人 員			
		25年3月期 第2四半期	24年3月期 第2四半期	比較増減	増 減 率	25年3月期 第2四半期	24年3月期 第2四半期	比較増減	増 減 率
阪 急 電 鉄		百万円	百万円	百万円	%	千人	千人	千人	%
	定期外	30,129	30,004	124	0.4	153,404	152,682	722	0.5
	定期	15,446	15,241	205	1.3	157,639	155,686	1,953	1.3
	通勤	13,128	12,933	195	1.5	106,955	105,426	1,528	1.4
	通学	2,317	2,307	10	0.4	50,684	50,259	425	0.8
	合 計	45,575	45,246	329	0.7	311,044	308,368	2,675	0.9
阪 神 電 気 鉄 道	定期外	10,136	10,017	119	1.2	56,676	55,982	693	1.2
	定期	5,442	5,391	51	1.0	56,323	55,620	702	1.3
	通勤	4,851	4,805	45	1.0	44,200	43,639	561	1.3
	通学	591	586	5	0.9	12,122	11,981	140	1.2
	合 計	15,579	15,408	171	1.1	112,999	111,603	1,396	1.3

- (注) 1 収入は百万円未満を、人員は千人未満をそれぞれ切り捨てて表示しています。
2 阪急電鉄の定期外収入・人員には、P i T a P a 区間指定割引運賃適用の収入・人員を含んでいます。
3 阪急電鉄・阪神電気鉄道ともに、第1種鉄道事業及び第2種鉄道事業の合計です。

【予想】

		収 入				人 員			
		25年3月期 (今回発表予想)	24年3月期 (実績)	比較増減	増 減 率	25年3月期 (今回発表予想)	24年3月期 (実績)	比較増減	増 減 率
阪 急 電 鉄		百万円	百万円	百万円	%	千人	千人	千人	%
	定期外	60,469	60,268	200	0.3	307,262	306,349	912	0.3
	定期	29,823	29,922	△ 98	△ 0.3	301,645	302,282	△ 637	△ 0.2
	通勤	25,524	25,629	△ 104	△ 0.4	207,821	208,689	△ 868	△ 0.4
	通学	4,298	4,292	5	0.1	93,824	93,592	231	0.2
	合 計	90,292	90,191	101	0.1	608,907	608,632	274	0.0
阪 神 電 気 鉄 道	定期外	19,365	19,422	△ 56	△ 0.3	109,031	109,284	△ 253	△ 0.2
	定期	10,701	10,623	78	0.7	109,658	109,275	382	0.4
	通勤	9,579	9,505	74	0.8	86,763	86,363	399	0.5
	通学	1,121	1,118	3	0.3	22,895	22,912	△ 17	△ 0.1
	合 計	30,067	30,045	22	0.1	218,689	218,560	128	0.1

- (注) 1 収入は百万円未満を、人員は千人未満をそれぞれ切り捨てて表示しています。
2 阪急電鉄の定期外収入・人員には、P i T a P a 区間指定割引運賃適用の収入・人員を含んでいます。
3 阪急電鉄・阪神電気鉄道ともに、第1種鉄道事業及び第2種鉄道事業の合計です。

(4) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	25年3月期 第2四半期末	24年3月期末	比較増減
資 産	2,265,579	2,274,380	△ 8,800
負 債	1,721,361	1,749,578	△ 28,216
純 資 産	544,217	524,801	19,416
うち、株主資本	542,514	521,421	21,092
うち、その他の包括利益累計額	△ 11,492	△ 8,128	△ 3,363

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	25年3月期 第2四半期	24年3月期 第2四半期	比較増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	51,854	52,989	△ 1,135
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 25,097	△ 16,770	△ 8,326
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 28,948	△ 36,895	7,947
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,773	22,230	542

(6) 連結有利子負債

【実績】

(単位：百万円)

	25年3月期 第2四半期末	24年3月期末	比較増減
借 入 金	1,030,688	1,037,328	△ 6,639
社 債 (注)	102,000	137,000	△ 35,000
コマーシャル・ペーパー (注)	20,000	—	20,000
リース債務 (注)	10,653	9,319	1,333
有利子負債計 (A)	1,163,342	1,183,647	△ 20,305

(注) 連結貸借対照表上、1年内償還予定の社債及びコマーシャル・ペーパーについては、流動負債の「その他」に含まれており、リース債務については、流動負債・固定負債の「その他」に含まれています。

【参考】

(単位：百万円)

	25年3月期 第2四半期末	24年3月期末	比較増減
有利子負債計 (A)	1,163,342	1,183,647	△ 20,305
現金及び現金同等物 (B)	22,773	23,572	△ 799
純有利子負債計 (A-B)	1,140,569	1,160,074	△ 19,505

【予想】

(単位：百万円)

	25年3月期末 (今回発表予想)	24年3月期末 (実績)	比較増減
有利子負債計	1,150,000	1,183,647	△ 33,647

(7) 設備投資

(単位：百万円)

	25年3月期 第2四半期	25年3月期 (今回発表予想)	24年3月期 (実績)
設 備 投 資	26,364	71,000	55,267

・主な設備投資

[25年3月期 (今回発表予想)]

阪急電鉄㈱

- ・車両新造
- ・駅施設改良ほかサービス向上
- ・自動列車停止装置設備
- ・梅田阪急ビル建替
- ・新大阪阪急ビル新設

阪神電気鉄道㈱

- ・住吉～芦屋間高架化工事

[24年3月期 (実績)]

阪急電鉄㈱

- ・車両新造
- ・駅施設改良ほかサービス向上
- ・自動列車停止装置設備
- ・梅田阪急ビル建替
- ・新大阪阪急ビル新設

阪神電気鉄道㈱

- ・車両新造
- ・住吉～芦屋間高架化工事